

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793400025		
法人名	社会福祉法人 邦寿会		
事業所名	グループホーム どうみょうじ高殿苑		
所在地	大阪府藤井寺市道明寺3-2-2		
自己評価作成日	令和4年4月19日	評価結果市町村受理日	令和4年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の自然を感じる事ができる広大な敷地内に、社会福祉法人が運営する複合型介護施設があり、その一部分として1ユニット(9名)のグループホームがあります。「笑顔と思いやり、共に暮らし、安らぎと喜びを分かち合う」を理念とし、職員は家族やボランティア、地域の方々の協力を得て、入居者様一人ひとりの思いや、暮らしの希望。意向に沿う様支援し、入居者様が安心して生活して頂ける様に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は社会福祉法人で、創造性ある高齢者福祉と乳幼児保育事業を幅広く運営し、社会貢献を目指している。当事業所は、約3,300坪の敷地に、特養、グループホーム、ケアハウス、ショートステイなどと併設する「複合型介護施設」の2階にあり、14年になる。敷地内は、樹木や畑などを広く配し四季を感じ、穏やかに暮らせる環境がある。敷地内の各施設が連携し、利用者の状態や家族の要望に応じた入居や暮らし方の選択が可能である。また、毎年行う家族アンケートや、3か月毎に利用者・家族が参加するサービス担当者会議の話し合いなどで、日々の利用者サービス向上に努めている。また、走行リフトによるノーリフティングケアやマイスター制度(専門技能の習得)を導入し、利用者の安全・安心に繋がる施策と高齢する職員への負荷軽減に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年5月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と思いやり、共に暮らし、安らぎと喜びを分かち合う」を法人理念として掲げ、全スタッフを対象とした説明会を年に1回開催している。また、「認知症の種別に応じた専門的ケアと地域における認知症の課題に取り組み、南河内をリードするグループホームになります」を事業所独自の理念としている。理念に沿った部署ごとの目標を定め、目標達成に向けて各スタッフで取り組んでおり、毎月の会議で職員全体で共有している。	法人理念を事務室前に掲示するとともに、独自の事業所理念を作成し、毎年全職員への説明と、毎月の施設内会議で話し合い、常に理念を意識した行動の定着化を図っている。また、理念に基づく事業所の目標を設定し、毎月の会議で進捗状況の確認をするなど、日々の実践に繋がるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが流行するまでは、入居者様と共に、地域の祭り等の行事には積極的に参加や、地域での防災訓練へも参加し交流を深めていたが、コロナ禍では参加出来ず。どうみょうじ通信を発行し地域住民に配布(活動の様子や健康に関する記事を地域住民に発信)	今までは、地域行事(道明寺天満宮での盆踊りやだんじり祭りなど)の参加や、約10団体のボランティアの受け入れをしていたが、コロナ禍で自粛している。町会長とは日頃から情報交換を図っており、2か月毎に発行する「どうみょうじ高殿苑通信」(苑全体で作成)を町内会に回覧して地域住民に周知するなど地域に根差した対応に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが流行するまでは、地域住民が参加できる、介護教室(年2回)や リズム体操(月1回)を開催。ボランティアの方に向けての勉強会も年1回開催していたが、コロナ禍では開催できず。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが流行するまでは、2か月毎に特養と合同で開催し、日々の取り組みや活動内容について、スライドを使って報告し、意見交換も行っていたが、コロナ禍では開催できず。各参加者を訪問し、資料をお渡しし、個別にご説明する。	会議は2か月毎に地区役員、市職員、介護相談員、包括支援センター職員、民生委員、利用者・家族が参加し、併設施設と合同で開催している。コロナ禍の約2年間は書面会議に変更しており、構成メンバーに入居者状況、事業所の活動内容と活動予定などを記載した資料を持参し報告している。現在コロナ感染状況を見極め会議の再開を検討している。	調査時に議事録の確認が出来なかったことから、議事録の作成と適切な保管方法を検討し関係者へ周知すること。また、会議での報告内容も、事故・ヒヤリハット、職員異動なども加え参加者からの意見・要望の把握に努め事業所運営やサービスの質の確保に繋げることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	施設全体として、行政の担当窓口との連携を図っている。コロナ流行までは、運営推進会議に、市担当者・地域包括支援センター職員・介護相談員が毎回参加していた。	藤井寺市の担当窓口とは、「どうみょうじ高殿苑通信」を持参した時や、運営推進会議の時に事業所状況を積極的に報告し、助言を得ている。2か月毎に介護相談員の受け入れ(現在はコロナで中止)の際の助言には真摯に対応するなど、日頃から市との協力関係を築くように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット玄関の施錠を含め、身体拘束は行っていない。また、毎月、身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	「身体拘束適正化の為の指針」及び「身体拘束その他の行動制限防止に係る規範」に基づき、身体拘束廃止委員会を毎月開催している。身体拘束ゼロを目指しており、拘束した事例はない。スピーチロックなど不適切な対応があれば職員間で注意し合い適正化に努めている。利用者の安全確保のため、離床センサー付きベッドの導入を進めている。	身体拘束に関する研修は、年2回(ネット配信研修含む)開催しているが、開催した履歴(研修日時、受講者、研修内容など)を確認することが出来なかった。開催履歴を残し、全ての職員が研修内容を振り返りできる体制づくりを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフのストレスチェックを定期的に行っている。また、虐待が見過ごされないよう風通しのよい職場環境を作る努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様1名が成年後見人制度を利用中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時時に、書面にて説明しており、改訂等で契約内容が変更となる場合際には、都度説明し了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ流行までは、主にカンファレンス開催時に、意見や要望の聞き取りを行っていた。その他にも、定期的に面会に来られる家族様も多く、都度現状の報告を行い、意見を聴いて対応していた。 コロナ禍では、カンファレンスや面会は、必要最小限で開催。その他の方については、定期的に電話にて現状報告とご家族のご意見やご意向を聞き、ケアに対応していた。 また、年1回、ご家族様満足度アンケートを実施し、ご家族からの意見を聞く機会を設けている。	利用者・家族からの要望は、面会時や3か月毎に開催するサービス担当者会議、及び年1回実施する「ご家族様満足度アンケート」で把握に努めている。コロナ禍で面会等を制限しているため把握する機会が減っている家族には定期的に電話を掛けている。家族からは面会の要望が多く、シールド越しやオンライン面会などで対応した例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングや毎日の申し送り時を意見や提案を聞く場としている。また、普段から意見や提案がしやすい職場の雰囲気づくりを心掛けている。	職員の意見・要望は、毎月の職員ミーティングや日々の申し送りの時に、また、年2回事業計画の進捗状況を確認する個人面談の際に把握に努めている。把握した内容は、可能な限り改善するように心掛けている。職員の定着率や働きがいの向上のために、半日有給休暇の導入や正月手当の導入など、処遇を改善した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、運営本部より就業規定等に関して全職員に説明を行っている。その際、意見の聞き取りを行い、反映させている。各事業所でも、個人面談を定期的に行い、要望を吸い上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成27年度よりコーチャー制度を導入し、新卒職員に対してマンツーマンでの指導・育成を行っている。その他外部講師による指導やスキルチェック表での自己分析・介護向上委員会の設置・配信研修の受講等を行い、知識や技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でもあり、他施設との交流は図れていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	待機者は当苑の他サービスを受けておられるケースが多く、事前に本人様に面会し入居までに関係性を築ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み後は定期的に連絡を取り、本人様の状態確認と合わせて、家族の不安や要望等も聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を見極め、必要時には他サービスの紹介や連携を図り、問題解決に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人理念「笑顔と思いやり、共に暮らし、安らぎと喜びを分かち合う」に基づき、人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れず関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いや要望をケアプランに反映し、共に本人を支えている事を実感できるしくみ作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある行事や場所の聞き取りを行い、外出支援に取り組んでいたが、コロナ禍では出来ず。	利用者は事業所周辺に居住していた人が多く、近隣に住む馴染みの人が時々面接に来訪することがある。また、馴染みの人からの電話の取次ぎなど関係継続に努めている。道明寺天満宮に初詣やお参りに行く要望が多く、外出自粛中は事業所内に神社をつくり対応した例がある。併設の施設利用者と新たな馴染みができる利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や個性を把握し、入居者同士が無理なく関りを持てる様、食堂での座席を配慮したり、必要時は職員が仲介に入っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により、一旦退居となった方に対しても、入院先の病院や家族に定期的に連絡をとり状態の把握に努め、必要時は相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から得た情報や、日々のケアでの気づきをケース記録や会議で共有し、本人の意向把握に努めている。	入居時や日々のかかわりの中から思いや意向の把握に努めている。把握が困難な利用者には、顔の表情や態度を見逃さないように心掛けるとともに家族に確認している。把握した内容は、日々のケース記録に残し申し送り事項にするとともに、毎月開催するユニット会議で職員間で共有し日々の利用者のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴や、馴染みの暮らし方等を聞かせて頂いている。また、日々の生活において疑問に思った事は、その都度カンファレンス時に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノート、また日々のケース記録によってほん人の状態把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施。 カンファレンスは3か月毎に開催し、話し合いの内容を反映したケアプランを作成し、同意を得ていたが、コロナ禍では、電話にて同意を得ている。	入居時に、利用者・家族から生活歴や要望を詳細に把握し、医師、看護師、歯科衛生士から助言を得て、長期半年、短期3か月の介護計画を作成している。毎月のモニタリングと、3か月毎に利用者・家族が参加するサービス担当者会議を開催し、要望等を都度介護計画に反映している。また、ケース記録にも反映し日々のケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録により、職員間の情報共有に努めている。また、その内容は介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	物品の購入、急な受診等、家族の対応が困難な場合は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ流行以前は、地区長の協力を得て、地元行事に参加したり、商店街での買い物や美容院を利用したりしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所には24時間対応してくれる医療機関があるが、入居前から利用しているかかりつけ医の診察を希望されれば、自身が希望するかかりつけ医より、安心して往診等の医療を受けて頂ける様に支援している。	利用者1名以外は、協力医療医を主治医としている。内科・脳神経科以外は、看護師→主治医の指示による受診体制をとり、歯科は必要に応じて訪問診療としている。施設全体での看護師・歯科衛生士が常勤しており、日常の健康管理はきめ細かく行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師、または苑内の看護師と連携を図り、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、病院の相談員との情報交換を行い、早期の退院に向けて積極的に働きかけている。地域病院の相談員の協力を得て、サマリーの見直しも実施した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医とも相談し、適切なタイミングで終末期の意向について話し合いを行っている。ターミナルケアの実施については、医師からの説明に同席し、家族には文書で同意を得ている。	看取り看護・介護取り組み実施の指示書、緊急時の対応指針、看取りに関する指針を備え、適切に、必要時に応じて医師・事業所より説明し同意を得ている。家族の思いを大切に、日常ケアの延長線上での細かなケアプランの基、管理栄養士・歯科衛生士などとの協同で看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生後は、職員間で振り返りを行い、対応やマニュアルの見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体として平成29年に災害に対する事業継続計画を作成し、マニュアルに沿った訓練を年2回実施している。	コロナ禍に在りて、施設全体で、通報連絡・避難誘導と夜間想定2回の自主訓練を実施している。施設が石川河川沿いに在り、水害に関しての事業継続計画を整備し、他の災害についても準備を進めるとしている。	複合施設の一角にあり、総合訓練は容認できるが、重度化が進む認知症の9人と職員体制、構造上の課題を検討したグループホーム自体の、各種災害マニュアルの策定と、複数回の訓練を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けは、ケアの最も重要な部分である事を、スタッフ全員に周知徹底できる様、日々重要性を説明している。	利用者夫々が歩いてきた軌跡、喜び悲しみの人生訓を知り、理解することを基本に、その人らしさを大事にした暮らしの支援を、人格を尊重したケアを日々心掛けたいと努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表現できる様な関係性作りを心掛けている。また、言葉では表現できない方に対しても、表情の変化等を見逃さない様、観察の視点を養う研修を受講している(WEB)。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアの見直しや変更をする際は、業務優先になっていないか、常にスタッフで話し合い確認し合う様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族と相談しながら、個人の好みを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	施設内の厨房で調理した食事を提供している。月に1回は食事やおやつ作りを行い、職員も一緒に食卓を囲む機会を作っていたが、コロナ禍で、感染拡大予防の為、職員と一緒に食卓を囲む事はしていない。	重度に伴うADLの低下で食事介助要の人が増えているが、夫々の状態に合せた姿勢で丁寧な介助がある。車イスから椅子への移乗、体に合わせた高さのテーブルと椅子などの対応があり、近時に入居のご夫婦の準備や片付けに参加する微笑ましい風景も見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理人栄養士や医師の指示の下、栄養バランスのとれた食事を提供している。食事・水分量を把握し、ここに応じた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導も下、個々に合わせた清掃具の使用・口腔ケアを毎食後行っている。必要時は歯科往診にて治療や指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、トイレでの排泄が継続出来る様、介助方法の検討を行っている。また、やむを得ずオムツを使用する場合においても、種類や使用方法を検討している。	介護度4・5を含め重度化が進む中で、トイレ誘導や排泄用品交換時もトイレで排泄の心地良さを忘れないようにと支援している。排泄用品の使用については、コスト軽減も考慮しつつ、その機能性と適切な使用法について話し合い、新入職員への指導にも当たっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時間以外にも、水分補給の時間を設けたり、好みの飲み物を把握する等、工夫して水分摂取に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の回数や時間は、可能な限り本人の希望に沿う様に勤務体制を整えている。	週2回を基本に、3方向介助ができる檜の浴槽に、好みの温度で出来るだけ湯に浸かる形に心掛け、習慣とする入浴スタイルで、体と洗髪のシャンプーも持ち込みで、お風呂タイムを楽しんでいる。入浴拒否の人は居なくなったとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は長時間の座位を避け、ベッドで休む時間を作っている。また、就寝や起床の間についても、業務優先とならない様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や調剤薬局と密に連絡を取り、処方内容の変更時や用法に関する注意点を把握する様に努めている。薬情報は分かりやすくファイリングし、すぐに確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして頂き、卵焼きを作って頂いたり、苑庭で季節を楽しんでいただけるように散歩したり、役割や楽しみを持って過ごして頂ける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが流行する前は苑庭の散歩や、地域への買い物等、外気に触れる機会を作っていた。また、車での遠方への外出も実施していたが、コロナ禍では、実施出来ず。	コロナ禍で、この2年ほどは苑外への外出は控えている。広い敷地に種々の樹木や畑があり、夫々の状態や天候に合わせての苑内の散歩に努めている。近時入居のご夫妻は、畑に出かける機会を楽しみにしている様子である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	、現在、金銭を自身で所持・管理している入居者はいない。コロナが流行する前は、外出行事や買い物時に、家族や職員と一緒に好きな物を購入したり、外食したりしていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎを行っており、職員の介助にて家族と会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食堂の窓からは、中庭が見え、季節を感じる事ができる植物を植えている。室温については、入居者の視点に立って調節している。	館内2階に在るホームは、リビングや食堂から園庭や中庭が見え、開放感のある中に間隔に配慮したテーブルの配置に、季節感のある装飾で居心地よく整えられている。リビングにソファと畳敷スペースを設け、寛ぎとレクリエーション時に用いられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ダイニングとお好きな場所で過ごして頂いているが、居場作りという観点においては、十分な環境が整っていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族と相談し使い慣れた家具や、馴染みのある物を持参して頂きたい旨を説明している。	和室7、洋室2が中庭を囲んで配置され、6畳ほどのスペースに加えて洗面場とトイレ、収納所の設置があり、廊下より様子が窺える障子張りの小窓が付いている。夫々の持ち込み用品で使い勝手よく整えられ、特に和室は従前の暮しの延長感があり、個々人の居心地の良さが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの扉はスライド式になっており、残存機能を活かす事ができる様に工夫している。		